

九大病院だよりは患者さん向けの広報誌です。ご自由にお持ち帰り下さい。

不妊治療の一つとして 九州大学病院で体外受精を開始

九州大学病院産科婦人科では2006年12月より不妊治療の一つとして体外受精・胚移植法（IVF-ET）の実施を開始いたしました。

現在、出生した児の65人に1人は自然妊娠以外の方法により妊娠しており、体外受精は不妊症の標準的治療になっています。しかし、体外受精による妊娠は多胎になる確率が高く、その数が増えるにつれ新生児医療の現場ではベッドが不足するという問題も生じてきています。このような社会状況の中、高度周産期医療が行える施設をもつ九州大学病院で厳格な適応のもと体外受精を行う意義は大きいと考え、今回、日本産科婦人科学会に施設登録しこの治療法を開始することになりました。

体外受精治療の適応は、妊娠を希望されているご夫婦の中で一般的な不妊治療法を十分行っただけで妊娠できなかったご夫婦や、他の方法では妊娠が極めて難しいと判断されるご夫婦です。「卵巣で发育した卵子を体外に取り出し（採卵）、精子と受精させ（媒精）、数日間育て（培養）、得られた受精卵（胚）を子宮内に戻す（胚移植）方法」により、妊娠成立を目的とする不妊治療法です。

統計上、体外受精における一般的な治療成績は採卵あたりの妊娠率が約25%であり、採卵あたりの出産（分娩）率は18%です。また女性の年齢が高くなるに従って低下し、40歳以上では約10%程度とされています。流産率は約20～25%で、自然妊娠（15%）と比較して高くなります。子宮外妊娠は約5%で、自然妊娠に比べて約3倍高い数値となっています。複数個の胚移植は予期しない多胎妊娠になる可能性があります。多胎妊娠は妊娠中毒症や切迫流産など合併症が多く、未熟児で生まれるなど児への影響も大きくなります。

九州大学病院で施行された体外受精により妊娠された方はご本人の希望があれば、引き続き高度な設備を整えた当院の周産母子センターで対応いたします。

連絡先 九州大学病院産科婦人科外来 TEL:092-642-5409



まことの花

「物数を極め、工夫を凝らす」・・・世阿弥の言葉です。能の世界では、最高到達点を「花」と言います。「花」には、「時分の花」と「まことの花」があり、前者は年少時には「花」のように見えるが、能力に驕り努力を怠ったため、ただの役者となってしまった人達のことだそうです。「まことの花」を目指すには、長い時間の厳しい稽古と豊富な経験、そしてその中での創意工夫が求められる一それが冒頭の言葉なのです。

放射線科教授 ほんだ ひろし
本田 浩

MESSAGE from Hiroshi Honda



医療の世界も同じだと思えます。放射線科第2代教授入江英雄先生の言葉、「病む人の気持ち」が、当科のモットーですが、「病む人の気持ち」を汲み、癒し、充たす医療を提供するには、どうしたらよいか？ まさしく、医師としてのみならず、「人」としての豊富な経験とたゆまぬ努力が求められるのだと思います。

体外受精の具体的な治療方法及び治療費(概算)

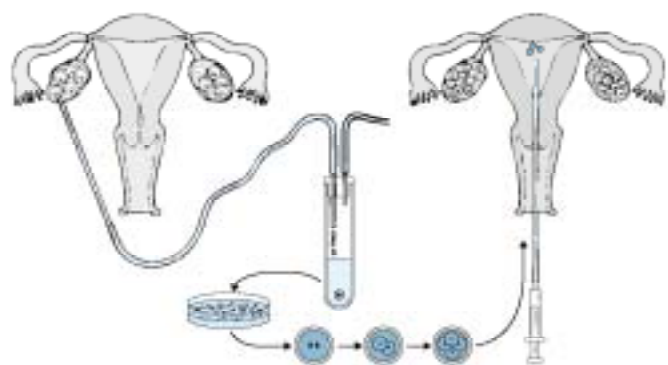
1 具体的な治療方法

本院で一般不妊検査、一般不妊治療を行った後、体外受精の適応があるかどうかを判断します。一般的な治療方法としては、外来で1週間～10日間かけて、点鼻薬の投与及び排卵誘発剤の注射を行います。その他、自然周期法など、それぞれの状態に併せて薬剤の投与方法を変えていきます。

超音波で卵巣の状態を観察し、卵胞の発育を確認できたら、採卵を行うため、前日入院します。合併症がなければ当日退院となります。

受精が確認できれば2～5日後に受精卵(胚)を子宮内に戻す(胚移植)方法を行います。所要時間は10分～15分位です。胚移植には入院は必要ありません。

胚移植後の14日目に尿検査で妊娠判定を行います。



2 治療費について

体外受精・胚移植は保険適応でないため、それに関わる診察料、薬剤料、技術料の全ては自己負担となります。例えば、1泊2日で入院し、標準の治療を行った場合は、約235,000円となります。この他、診察料、薬剤料など費用がかかることとなります。

治療方法・費用等の詳細は、当産科婦人科不妊内分泌担当医(TEL:092-642-5409)にお尋ねください。

小児喘息

小児気管支喘息は、発作性の喘鳴を伴う呼吸困難を繰り返す病気で、この呼吸困難は自然軽快することも多いのですが、まれには命にかかわることもあり、適切な管理が必要です。喘息発作は、原因となるアレルゲンの曝露、煙や寒冷などの物理化学的刺激、運動、気道感染をきっかけにしておこり、夜間、早朝に好発します。乳児では気道感染により喘鳴をきたすことがまれではないため、診断が困難なこともあります。また通常ヒューヒューという呼吸時の喘鳴は、乳児ではゼーゼーといった音です。発作時の治療としては、 β 2刺激剤の内服あるいは吸入が第一選択になります。発作の程度が強い場合には酸素投与が必要となり、入院治療が必要になります。気管支喘息は発作を起こさないよううまく管理をすることが大切です。気管支喘息発作の誘因をアレルゲン検査等で調べ、可能な限りそれを除去し、必要なら抗アレルギー剤の内服や β 2刺激剤や抗アレルギー剤の吸入、あるいはステロイド剤の吸入などの方法のなかで、最も合った予防法を気管支喘息の重症度に応じて適切に選択します。なお、以前からよく使用されていたテオフィリンは、学童期以前の小児では重積を誘発することから、最近では使用を控えるようになってきました。(小児科外来 TEL:092-642-5430)

診療科の紹介

今回は、消化器・総合外科(第二外科)をご紹介します。



消化器・総合外科(第二外科)の担当領域は、消化管(食道・胃・大腸)、肝・胆・膵、脾・門脈、呼吸器、血管、肝移植、乳腺と多岐にわたっています。各領域の専門医が有機的な繋がりを持ち、手術をはじめとして、抗癌剤治療、低侵襲治療(血管内治療、肝がんに対するラジオ波焼灼術など)、また、血管新生遺伝子治療といった最新治療まで幅広く取り組んでいます。

患者さんに十分説明した上で、最も適した治療法を選択することを基本にしています。それぞれの患者さんには各疾患の専門医が主治医となって診療にあたりますが、患者さんに優しい医療の実践を第一に考え、診療に取り組んでいます。

主な治療・高度先進医療

- (1)消化管、肝・胆・膵、呼吸器、乳腺の悪性腫瘍に対する手術、生体肝移植・脳死肝移植、人工血管置換術、血管バイパス術、門脈圧亢進症に対する手術等
- (2)各種癌に対する最新の抗癌剤治療
- (3)低侵襲治療(腹腔鏡下、胸腔鏡下手術、血管内治療、肝がんに対するラジオ波焼灼術)
- (4)内科と連携したC型肝炎患者に対するIFN導入目的の腹腔鏡下脾臓摘出術
- (5)食道静脈瘤に対する血管内治療
- (6)世界初の血管新生遺伝子治療

(第二外科 科長 前原 喜彦 TEL:092-642-5479)

栄養 サポート チーム 発足しました

栄養サポートチーム委員会 委員長 久保 千春

一般に病院に入院している患者さんの約40%には何らかの栄養障害があるといわれています。今までこの栄養障害について、当院では各科のスタッフが治療にあたってきました。さらに栄養状態改善のためのサポートを強化するために、昨年11月より当院では、全ての科を対象にした栄養サポートチーム(NST)が設置されました。このNSTは、臨床栄養学を専門とする内科系医師、外科系医師、集中治療部医師、歯科医師、薬剤師、看護師、栄養管理士、事務職員などで構成されています。各病棟で行われた患者さん一人一人の栄養状態のスクリーニングを

基に、栄養状態のよくない患者さんを対象に、チームとして回診を行います。その患者さんの栄養状態を把握し、最適な栄養状態により早期に病気の改善が望めるように、各科と協力し栄養管理にあたっています。

NSTはまた、臨床栄養の重要性を全ての医療スタッフに認識してもらい、九州大学病院ならではのレベルの高い栄養管理を提供することを目指しており、毎月定期的な講演会を開き、院内スタッフの臨床栄養の知識の普及にも努めております。1月19日には院外の医療関係者も交えた発足記念講演会を開きました。

病院全体で質の高い栄養サポートを行うことがNSTの使命です。それにより患者さんの病気の改善や入院生活の質を高め、さらには早期退院へとつながるよう臨床栄養の面からサポートするNSTをよろしくご依頼申し上げます。



別府先進医療センター 循環・呼吸・老年病内科



当科では、生活習慣病の中でも発症した場合に直接生命に関わる可能性の高い動脈硬化性疾患を取り扱っております。具体的には狭心症、心筋梗塞、脳卒中などです。これらの疾患は、発症から早期の治療により命を守ることができるようになってきています。しかしながら、一命を取り留めた場合でも、心不全や麻痺等の後遺症に悩まされるおそろしい病気です。当科では、まず発症予防に力を入れ禁煙外来を含む生活指導や内服治療を行っています。さらに発症時の急性期治療は当然のことですが、慢性期の身体機能回復にも重点をおいております。生活習慣病は、高齢患者が多く、急性期治療が終わっても後遺症に加えて、精神機能や体力の低下、免疫力の低下がみられ寝たきりになるリスクが高いと考えられます。我々は、急性期から回復した時点で全身状態を評価して慢性回復期リハビリテーションを入院中に引き続き受けていただきます。これは土地柄を生かした温泉療法などにより、身体機能回復に成果を上げつつあります。長期リハビリテーションが望ましいと判断した場合などには療養病床の利用を行いながら社会復帰を目指すというような全人的治療を行っています。このように、発症から社会復帰迄の各ステップに対応した診療を充実させて一施設内ですべて完できるように努めております。

(循環・呼吸・老年病内科 科長 牧野直樹 TEL:0977-27-1675)

お知らせ 別府先進医療センター全館禁煙について

タバコによる健康被害の認識が広まるとともに受動喫煙を防止する機運が高まっています。別府先進医療センターでは、11月にタバコ対策ワーキンググループを立ち上げ検討を重ねた結果、平成19年3月1日付で全館禁煙とすることになりました。今回は患者さんや職員の中にも喫煙習慣を排除できない人がいることを考慮し、敷地内全面禁煙ではなく建物内禁煙としました。このため室外喫煙場所を1カ所建設中です。今後、禁煙支援のための講演会など地道な努力を重ねていきたいと思っております。

館内禁煙



受動喫煙防止のため本館内禁煙
館内以外の喫煙を禁止します

歯科部門診療科のご紹介

小児歯科

①診療科の診療内容・専門分野

「親子にやさしいこどもの歯医者さん」をモットーとした小児歯科では、主に新生児（0歳）から15～16歳ごろまでの成長発育期の新生児、乳幼児、小児、学童児および青少年を対象に、口腔領域全体の歯科疾患の診断・予防・治療や口腔健康推進管理をはかっています。単に虫歯や歯周炎の治療のみならず、指しゃぶりや爪噛みなど将来歯並びに影響を与える可能性のある不良な癖に対する指導や、乳歯から永久歯に生え変わる時期での一時的な歯並びの治療、哺乳指導なども行っております。また全身的な病気の為に、外来での通院困難な方に対しては、入院中の歯科治療や口腔管理も行っております。そして障害児の歯科治療と口腔ケアも担当しています。

②患者さんとのエピソード

歯磨きをするときに、「逃げ回って磨かせてくれない。」「泣き暴れてさせてくれない。」といった話を良く耳にします。どんなお子さんも、初めは歯医者さん嫌いですから、診療室で泣き暴れるのは普通ですし、歯磨きも嫌がります。ところがどんなに泣き暴れていた子どもも、小児歯科に定期的に通院することで、ある時期が来ると上手にさせてくれるようになります。歯磨きも治療も、本人が理解し受け入れてくれるようになります。子どもとのふれあいの中で確立される成長の一面ですから、小児歯科医として一番感動する時でもあります。

③今後の目標

小児医療の一つとして、歯科保健活動を中心とした家族支援や、こどものメンタルなサポートにも貢献できる小児歯科医師の育成と診療システムを築いていきたいと考えております。

(小児歯科外来 TEL: 092-642-6465)



小児歯科診療室

お知らせ

◎九大病院建物内は全面禁煙となっています。皆様のご協力をお願いします。

禁煙のご相談は総合診療部禁煙外来（TEL: 092-642-5910）まで

外来診療日一覧

お尋ねは、下記の診療科等に直接お電話願います。午前中は大変込み合い、電話がかかりにくい場合があります。予めご了承下さい。(市外局番は「092」です)

診療科名(診療科目)	初診日	再診日	診療科名(診療科目)	初診日	再診日	診療科名(診療科目)	初診日	再診日
内科(初診) (642-5300)			先端工学診療部 (642-5993)	月～金	月～金	志 4 口腔腫瘍診療科 (642-6471)	月～金	月～金
内科(再診) (642-5302)			1 第一外科 (642-5453)	火・木・金	月～金	4 口腔総合診療科 (642-6490)	月～金	月～金
血液・腫瘍内科			1 第二外科 (642-5479)	月・水・金	月～金	4 歯周病科 (642-6425)	月～金	月～金
免疫・膠原病・ 感染症内科			1 整形外科 (642-5504)	月・水・金	月～金	4 歯内治療科 (642-6430)	月～金	月～金
消化器内科			2 脳神経外科 (642-5533)	月・水・金	月・水・金	4 咬合補綴科 (642-6435)	月～金	月～金
1 腎・高血圧・ 脳血管内科			2 心臓外科 (642-5565)	月・水・金	月・水・金	4 義歯補綴科 (642-6440)	月～金	月～金
2 内分泌代謝・ 糖尿病内科	月～金	月～金	北 小児外科 (642-5578)	月・水・金	月～金	5 全身管理室 (642-6483)	月～金	月～金
1 肝臓・膵臓・ 胆道内科			2 皮膚科 (642-5596)	月・水・金	月～金	5 小児歯科 (642-6465)	月～金	月～金
総合診療部			2 泌尿器科 (642-5615)	月～金	月～金	5 矯正歯科 (642-6460)	月～金	月～金
先端分子・ 細胞治療科			1 精神科神経科 (642-5640)	月～金	月～金	5 顎顔面口腔外科 (642-6445)	月～金	月～金
1 臨床遺伝医療科 (642-5421)	月～金	月～金	1 眼科 (642-5660)	月～金	月～金	5 歯科麻酔科 (642-6479)	月～金	月～金
2 心療内科 (642-5335)	月・木	月～金	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科 (642-5681)	月～金	月～金			
2 神経内科 (642-5349)	月～金	月～金	1 放射線科 (642-5705)	月・水・金	月～金			
2 循環器内科 (642-5371)	月～木	月～金	2 麻酔科蘇生科 (642-5719)	月・水・金	月～金			
2 呼吸器科 (642-5388)	月・水・金	月～金						
2 産婦人科 (642-5409)	火・木	月～金						
2 産婦人科 (産科) (642-5900)								
北 小児科 (642-5430)	月～金	月～金						

※○印の曜日は予約が必要です。

- 休診日
土曜日、日曜日、祝日、
年末年始(12/29～1/3)
- 受付時間(窓口)
8:30～11:00
自動再未受付機
8:15～11:00
- 外来玄関開閉時間
7:00～18:00

歯科部門

- 受付時間
初診 8:30～11:00
再診 8:30～15:00
(矯正歯科は、
8:30～16:00)

注

- 予約がある場合はこの限りではありません。
- 再来の方でも、1年以上受診されていない場合には、初診の曜日・時間となる場合がありますので、あらかじめ受診科「外来」にお確かめ願います。

診療施設名	電話番号
救命救急センター	642-5871
時間外受付	642-5872
総合外来受付	642-5163
入院受付	642-5138
公費申請窓口	642-5150
地域医療連携センター	642-5153
支払い窓口	642-5165
リハビリ受付	642-5169
患者様相談室	642-5862
在宅療養支援室	642-5167
	642-5185

病院にお越しの際は保険証をお忘れなく！

※保険証の提示がない場合には、保険の取扱いができません。

(代表) 092-641-1151

〒812-8582

福岡市東区馬出3丁目1番1号

携帯電話からも九大病院ホームページの診療案内・診療日案内・交通案内が閲覧できます。アドレスは<http://www.hosp.kyushu-u.ac.jp>です。

※外来患者さん用の駐車場を準備していますが、駐車台数が限られていますので出来るだけ公共の交通機関をご利用いただきますようお願いいたします。